

パラドクサ

—福音を恥とせず—

「福音を恥とせず」とは東北学院の3校祖のひとりのシュネーダー院長の説教の題であり、パウロの「ローマの信徒への手紙」(1:16)の引用である。つまり福音は一般的には「恥」なのである。パウロが「コリントの信徒への手紙二」(1:23)で記すように、福音は「ユダヤ人には躓き、ギリシア人には愚か」なのであった。イエス・キリストが神でありなおかつ人であるということはパラドクス(逆説)以外のなにものでもない。8世紀のイコンつまり神の肖像画の成立はそこを根拠としている。また、そうした逆説、弁証法がその後の哲学史の中でどのように展開され、近現代に至って実存思想や弁証法神学に継承されていったかについて、歴史的経緯を批判的に検討する。

2017年7月8日(土)
13:00~15:45

東北学院大学
土樋キャンパスホーイ記念館
3階H302教室

第1講 13:00~14:15

講師

鐸木 道剛

(文学部総合人文学科教授)

〈芸術〉の成立と キリスト論

東京大学大学院人文科学研究科美術史専攻修了。
修士(文学)。

専門は美術史。2016年度から現職、担当はキリスト
教美術。

第2講 14:30~15:45

講師

阿久戸 義愛

(文学部総合人文学科講師)

キリスト教と弁証

筑波大学人文社会科学部哲学・思想専攻(倫
理学分野)修了。博士(文学)。

専門はカール・バルト神学における教会論。2016
年度から現職、担当はキリスト教教育。

どなたでも受講できます。直接会場にお越しください。

主催

東北学院大学 総合人文学科 (高大連携事業)

共催

東北学院大学 キリスト教文化研究所

私立大学研究ブランディング事業「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」

問い合わせ先

東北学院大学 研究機関事務課

TEL:022-264-6401 FAX:022-264-6530